

玉村町 文化財通信

2024年3月4日発行

(次号4月発行予定)

第23号



～らよっとそこまで古探訪～



玉村町歴史どうぶつ散歩 Vol. 22

今日は、^{じんじんむら}神人村Ⅱ遺跡(樋越 305-7 現群馬県食肉衛生検査所)の30号土坑から出土した、「^{ずいか そうほうはちりょうきょう}瑞花双鳳八稜鏡」を紹介します。この遺跡は、奈良・平安時代の集落と平安時代の水田跡が見つっています。

この遺跡から平安時代の鏡がほぼ完形で見つかりました。この鏡は、八角形(八稜)であることと紐の左右に向き合う鳳凰と瑞花文(植物)が施されていることから、「瑞花双鳳八稜鏡」と呼ばれています。この鏡は平安時代を代表する鏡です。

前代である奈良時代の鏡は、「唐式鏡」が代表されます。唐式鏡とは日本に輸入された唐鏡と、それを原型として日本で鑄造した鏡、唐鏡を模して日本で作った鏡など、日本で確認される唐鏡と同じ型式の鏡すべてが含まれます。唐式鏡の最大の特徴は多様性です。それに対して平安時代に八稜鏡が出現を境に、文様の多様性がなくなり、鏡自体の数も出土鏡・伝世鏡問わず著しく減少します。この変化については、鏡の製作技法の変化が要因ではないかと考えられています。唐式鏡は、もともになる鏡を粘土に押し付けて型を取り鑄型が作られる「踏み返し技法」で作られました。何度も踏み返されるため、文様の細かい表現がつぶれてしまいます。これに対して、八稜鏡は「へら押し技法」というへらで粘土に文様を描いて作る方法で鑄型が作られたため、文様は繊細ではあるけれど量産には適していませんでした。この違いが鏡自体の数の減少につながったのではないかと考えられています。

この神人村Ⅱ遺跡から出土した八稜鏡は、石の上に置かれた状態で見ついていることから、地鎮のために埋納された鎮壇具ではないかと考えられています。

この「瑞花双鳳八稜鏡」は玉村町歴史資料館に展示してあります。ぜひ、平安時代を代表する鏡を見にご来館下さい。



コラム 今後の玉村町の文化財の継承にむけて

指定されていない文化財をどのように把握するかが重要さになってきています。探せばまだまだあるものです。文化財の調査をしていないだけかもしれません。また、歴史が浅いからといって価値がない、というわけではありません。それに、文化財とは何か、といったことも時代とともに変化していくことがあります。その文化財のもつ価値付けを再調査していく必要があります。先人たちによる価値付けや解説から解放されて、自分自身がつながるような新たな価値付けや解説が作成されたら、もっと文化財が身近になるのではないかと思います。文化財は勝手に残るわけではなく、先人が努力して残してきたものです。例えば古墳にしても、中世以降には神社、墓地、戦の陣地として利用されたり、歴史的建造物にしても、幾度となく改修され、当初の姿を留めるものはありませんが、決して歴史的価値が無くなるわけではなく、むしろ先人が残そうとしてきた思いを感じます。

これからも「私がいるから、玉村町の文化財が守られているのだ」という声を多く聞きたいと思います。

重田家住宅

～公開・活用にむけて⑳～

昨晩夏の雹と突風による穀蔵屋根半壊状態ですが、現在修繕工事を実施しています。この文章が皆さまのお目に留まる頃には完了していると思います。同等の材料を使用して復元しましたが、周囲に馴染むまではやや目立つかもしれません。綺麗になった穀蔵を見学してください。

(重田家住宅管理担当者)

今年度通常公開情報：平日の水・木・金曜日、毎月第4土曜日 10:00～16:00(最終入館は15:30まで)なお、夜間の催事等はその都度対応します。都合により臨時休館あり。

文化財・歴史資料館 情報

スタンプカード
対象事業

3/9
(土)

まちづくり玉村塾 まちづくり発表会・交流会

歴史資産を生かしたまちづくりに取り組んでいるまちづくり玉村塾によるまちづくり発表会・交流会を開催します。

入場無料

【開場】午後1時～【開演】午後1:30～3:00

【場所】ふるハートホール（玉村町下新田 208-4）

【基調講演】「地域づくりと地域学」

講師 手島 仁氏

（一般社団法人群馬地域学研究所代表理事）

基調講演のほか、玉村塾の取り組みの発表や意見交流会を予定しています。

事前申し込み不要です。直接お越しください。

【事務局】生涯学習課文化財係 30-6180

3/23
(土)

重田家住宅 第4土曜日公開イベント ピアノ修復完成記念

歴史ある音色で人と地域をつなぐ 重田家住宅 ピアノ演奏会

重田家住宅に眠っていたピアノの修復を記念して演奏会を行います。

【開催時間】午後2時～3時

【場所】国登録有形文化財 重田家住宅

（玉村町小泉42番地）

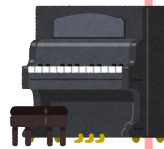
【演奏者】長江 恵佑さん（小泉地区在住）

【定員】30席（事前申し込み不要。直接お越しください。）席によっては見づらい場合もありますので、あらかじめご了承ください。

【演奏曲】（予定）愛の挨拶、早春賦、花 他

【お問い合わせ先】生涯学習課文化財係 30-6180

入場無料



令和6年度「重田家住宅」活用提案事業募集中！

国登録有形文化財「重田家住宅」を活用して、展示会や演奏会等のイベントをしてみませんか？

令和6年度は、平日の水・木・金曜日、毎月第4土曜日を重田家住宅公開の日とし、偶数月の第4土曜日では、それに合わせた活用事業を募集します。

【募集内容】重田家住宅を活用し、自らが実施するイベント等についての事業

- ・歴史的建造物の価値について理解を深めるもの
- ・古民家の雰囲気を活かしたもの
- ・地域の活性化につながるもの

【対象者】個人・団体（法人格の有無を問わない）

【現在募集中の日程】偶数月第4土曜日。（12月は第3土曜日）8月24日、10月26日、12月21日、令和7年2月22日。

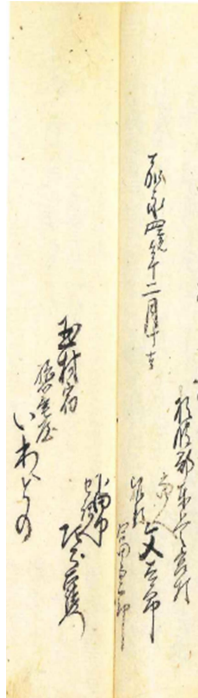
※光熱水費等負担金として1団体一日あたり一律500円の利用料金がかかります。

詳しくは窓口まで、またはホームページをご覧ください。



古文書を読んでみよう！

幕末の玉村の中心的人物であった渡邊三右衛門陳好の記録である『三右衛門日記』の中の「女子引取一札」について、第二三回目はこの文章を読みます。今回で「女子引取一札」は終わりです。



書き下し文：嘉永四亥年二月十七日、那波郡東上之宮村、当人文太郎、親類富五郎、下田中セ話人次郎右衛門、玉村宿旅籠屋いわどの読み方：かえいよんいどしにがつじゆうななにち、なわぐんひがしかみのみやむら、とうにんぶんたるう、しんるいとみごろう、しもたなかせわにんじろうえもん、たまむらじゆくはたごやいわどの

現代語訳：嘉永四年亥年二月十七日、那波郡東上之宮村、当人文太郎、親類富五郎、下田中セ話人次郎右衛門より、玉村宿旅籠屋いわどのへ

☆ 発行 ☆

玉村町生涯学習課文化財係・玉村町歴史資料館（電話）0270-30-6180
☎370-1105 群馬県佐波郡玉村町大字福島 325 番地 玉村町文化センター内

